

指導と評価の年間計画 現代文 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代文 B	2年	2	現代文 B (数研出版)	最新国語便覧 (浜島書店) 意味から学ぶ常用漢字 (第一学習社) 新現代文単語 (いづな書店)

科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習活動	①【授業】講義、質疑応答の形で授業をすすめることが中心となります。意見発表やスピーチ、新聞や図書館の書籍、インターネットを使つての調べ学習やプレゼンテーション、感想文や小論文を作成することもあります。漢字語彙などの基礎力の定着を確認するための小テストなども行います。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教養力・思考力・表現力・協働力</div>				
	②【家庭学習】 語彙力を高め、定着させるために漢字・語句の意味を調べたり、教材を音読して要約を書いたりするなどの予習をします。復習は、授業後のノートの整理、理解したことのみまとめ直しなどを行います。予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、幅広いジャンルの文章に触れるために自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもワークブック課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教養力・思考力・表現力・省察力・志力</div>				
未来開拓力	③【読書のすすめ】 国語力だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけます。また、新聞を活用し、視野を広げたり興味関心のある分野の情報を収集し考えを深めたりしていきます。定期的にブックレポート（新聞レポート）の提出を求めます。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教養力・思考力・省察力・志力</div>				
	※定期考査、実力テストに向けて 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習により身につけた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">思考力・表現力・省察力</div>				
	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○ 受講・発表態度の観察 ○ 授業ノート・課題の点検 ○ 自己評価	○ 受講・発表態度の観察 ○ 自己評価	○ 定期考査 ○ 課題の点検 ○ 自己評価	○ 定期考査 ○ 課題テスト ○ 小テスト ○ 受講・発表態度の観察 ○ 課題の点検	○ 定期考査 ○ 課題テスト ○ 小テスト ○ 受講・発表態度の観察 ○ 課題の点検

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評論（一） 国境を越える言葉 手の変幻 ■ 小説（一） 山月記 ■ 表現2 報告書 ■ 評論（二） 胆力について 「内的成長」社会へ ■ 詩 発車 永訣の朝 ほか 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 語句の意味や文脈に応じた表現方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 人間、社会、文化、自然などに対して自分なりの考えを持つ。 <input type="checkbox"/> 情景や登場人物の心理を場面ごとに追いつ想像力を働かせて読むと同時に、その変化をとらえる。 <input type="checkbox"/> 主題について考察し、人間の心理に対する理解を深める。 <input type="checkbox"/> 調査・分析・考察の手法や作成の過程と注意点を学び、テーマに応じた報告書を作成する。 <input type="checkbox"/> 効果的なプレゼンテーションの手法を学び、発表する。 <input type="checkbox"/> 文脈を考えながら語句・表現を読み取る。 <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 共感・疑問・思索などをとおして自分の考えを深める。 <input type="checkbox"/> 繰り返し音読し、リズムや表現の特徴を考える。 <input type="checkbox"/> 心情や情景を想像力を働かせながら読み味わい、主題について考察する。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評論（三） 未来世代への責任 擬似群衆の時代 ■ 小説（二） 三月の風 ■ 表現3 小論文 ■ 評論（四） 偶然とは何か ■ 小説（三） ころ 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 具体的事例をふまえながら、筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 本文の展開に即して筆者の主張を理解し要約する。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心理を場面ごとに追いつ、その変化をとらえ、共感・疑問・思索をとおして人間や社会に対する自らの考えを深める。 <input type="checkbox"/> 資料を的確に読み取り、分析・考察を行い、構成を工夫した説得力のある小論文を書く。 <input type="checkbox"/> 自らの主張を明確にし、論理的に述べる。 <input type="checkbox"/> 本文の展開に即して筆者の主張を的確に理解し、要約する。 <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心理を場面ごとに追いつ、その変化を的確にとらえる。 <input type="checkbox"/> 主題をとらえて人間の心理に対する理解を深めると同時に、人間の生き方、あり方について考察する。 <input type="checkbox"/> 話し合いを通じて考えを深める。 <input type="checkbox"/> 作者や時代背景について調べ、必要な情報を収集してまとめ、効果的に発表する。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
備考			

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典B	2年	文系4 理系3	高等学校 古典B (第一学習社)	最新国語便覧 (浜島書店) 体系古典文法 (数研出版) 古文単語330 (いいずな書店) 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習活動	<p>①【授業】音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。歴史的仮名遣いや、古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、ドリルトレーニングや小テストで習得します。基礎的事項の習得と並行して、作品の解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。また、作品・作者などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成することもあります。教養力・思考力・表現力・協働力</p> <p>②【家庭学習】 現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読、本文の視写、品詞分解、現代語訳を行います。漢文は、音読、書き下し文、訓点の記入、現代語訳を行います。辞書をしっかり活用して解釈しましょう。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもプリントやワークブックの課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>※定期考査、実力テストに向けて 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。思考力・表現力・省察力</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	<input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 授業ノート・課題の点検 <input type="checkbox"/> 自己評価	<input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 課題テスト <input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検	<input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 課題テスト <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検

年間指導計画 ※は文系のみ

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説話 古今著聞集 沙石集 宇治拾遺物語 ■ 随筆（一） 徒然草 方丈記 ■ 物語（一） 竹取物語 伊勢物語 大和物語 ■ 随筆（二） 枕草子 ■ 物語（二） 源氏物語 大鏡 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して話の展開をたどる。 <input type="checkbox"/> 描かれた場面や情景、登場人物の心情を考え、理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。 	単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 故事・寓話 ■ 古代の史話 十八史略 ※戦国策 ■ 漢詩の鑑賞 中国の詩 ※日本の詩 ■ 志怪と伝奇 新死鬼 ※枕中記 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 漢詩にうたわれている情景と心情とを関連付けてとらえる。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解する。 	
後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日記 更級日記 建礼門院右京大夫集 十六夜日記 ■ 物語（三） 平家物語 義経記 ■ 和歌 万葉集・古今集・新古今集 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できるようにする <input type="checkbox"/> 作品の意義や作者など文学史に関する事柄を理解する。 <input type="checkbox"/> 作品に書かれた時代の習俗や人々のものの考え方、歴史的事項などを理解する。 <input type="checkbox"/> 主題を読みとる。 <input type="checkbox"/> 和歌に託された心情を理解する。 <input type="checkbox"/> 枕詞や掛詞などの修辞法を理解する。 	問題ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、演習を通じて3つの観点について評価をおこなう。
期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 項羽と劉邦 鴻門之会 四面楚歌 ■ 道家の思想 老子 莊子 ■ 法家の思想 韓非子 ■ 宋・元代の史話 ※医薬談笑 ■ 三国志の世界 三国志演義 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などを自分なりに読み味わう。 <input type="checkbox"/> 文脈に注意しながら正確かつなめらかに音読する。 <input type="checkbox"/> 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 	
備考	文系古典4単位のうち、古文2単位、漢文2単位、理系古典3単位のうち、古文2単位、漢文1単位、として学習します。		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史 B	2年	4	新詳世界史 B (帝国書院)	世界史 B用語集 (山川出版社) グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)

科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 授業は、予習をしてきたうえで単元ごとに探究したい課題・問いを設定し、教科書や資料集などを用い、班学習などを通じた探究活動を中心に進めます。重要事項の補足としてプリントを配布しますので、予習・復習時に教科書・資料集を活用して空欄補充をしておくこと。思考力・表現力・協働力・省察力</p> <p>② 授業プリントの空欄補充などを教科書・資料集を活用しておこない予習、復習をします。教養力</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり問題集を解くなどして知識の定着を図ります。教養力</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の大きな枠組みと流れをとらえることにより、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に判断する。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、世界の歴史を我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	単 元	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	1 部	諸地域世界の形成と交流		単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
		世界史への扉	<input type="checkbox"/> 過去の歴史的事実が現在の自分たちの生活と結びついていることを理解し、興味と関心をもつ。教科書で投げかけられている問いに答えることを通じて、歴史を学ぶ意義に気づく。	
		序章 人類の出現	<input type="checkbox"/> 人類の出現から文明の成立にいたるまでの先史時代を概観し、獲得経済から国家の形成に至る過程を学び、歴史時代へのつながりを認識する。	
		1章 オリエント世界と地中海世界	<input type="checkbox"/> オリエント世界と地中海世界の特質を気候・地形などと関連させてとらえるとともに、それが統合されて、西アジアとヨーロッパの原型がつけられていく様相を、アフリカを含めて歴史的・地域的にとらえる。	
		2章 サハラ砂漠以南のアフリカ	<input type="checkbox"/> 海洋と山脈に囲まれ、モンスーン気候の影響を大きく受けて、独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を把握し、同時に他地域との交流についても理解する。	
		3章 南アジア世界の形成	<input type="checkbox"/> 人口密度が低く、全域を支配する国家・宗教・民族は出現しなかったが、水上交通網の発達により商業と人の移動が活発で、外に開かれた流動性の高い独特な社会が形成されてきたことを把握する。	
		4章 東南アジア世界の形成	<input type="checkbox"/> 北の乾燥・畑作と南の湿潤・稲作という二重の農耕世界が広がるが、それを漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを把握する。同時に周辺国家形成との関連を理解する。	
		5章 東アジア世界のあけぼの	<input type="checkbox"/> 遊牧民とオアシス民が共存する中央ユーラシア世界が諸地域をつないできたこと、その中心的役割を担った騎馬遊牧民への理解を深める。	
		6章 中央ユーラシア世界の形成と展開	<input type="checkbox"/> 遊牧民の活動の活発化と中国の分裂時代が重なり、大きく変容した東アジア世界の状況を総合的にとらえるとともに、周辺地域の自立を把握する。	
		後 期	8 部	
9章 ヨーロッパ世界の形成	<input type="checkbox"/> ヨーロッパ世界が、ローマ＝カトリック圏とギリシア正教圏に分かれながらも、ローマ帝国の伝統とキリスト教によって独自の世界を形成していったことを把握する。			
10章 ユーラシア大帝国の出現	<input type="checkbox"/> モンゴル帝国は従来から内陸交易で結ばれていたユーラシア大陸の農耕・牧畜両世界を統合したものであり、世界の一体化の過程において一大画期となったことを把握する。			
2 部	海洋による世界の一体化			
1 部	1 部	1章 アジア諸地域の栄華と成熟	<input type="checkbox"/> モンゴル帝国の後継国家としての明・清、またオスマン帝国などのイスラーム諸王朝が強大かつ柔軟な統治体制をつくりあげ、独自の文明を発展させたことを理解する。	
		2章 大規模な分業体制の成立	<input type="checkbox"/> 「大航海」により、西欧を中核とする近代世界システムが形成され始めたこと、および西欧内部でもルネサンスと宗教改革が起こり、主権国家体制の形成につながっていったことを理解する。	
		3章 ヨーロッパ諸国の主権強化と大西洋三角貿易	<input type="checkbox"/> 「17世紀の危機」に対処すべく、ヨーロッパ諸国では変革が行われたこと、主権国家体制にそくした近代的な国際関係ができてきたこと、またイギリスとフランスが世界各地で覇権を争ったことを理解する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
日本史 B	2年	4	詳説日本史 B (山川出版社)	新詳日本史(浜島書店) 要点整理ゼミナル日本史 日本史用語集 (山川出版社)

科目の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 授業はプリント学習を中心にを行います。その際、より理解度を高めるために史料集や図説なども用いて学習を行います。思考力・表現力・協働力・省察力</p> <p>② 基本は復習です。授業中にもしっかり理解に努めるだけでなく、授業のあった日に 10 分程度の復習をしましょう。また週末ごとに 1 週間の内容を、必ず教科書を読みながら復習しましょう。その際に、出来事・人物にのみ着目せず、時代背景や当時の価値観にも注目し、その時代のイメージをつくり、流れをとらえましょう。教科書に必要な内容は書いてあります。教養力</p> <p>③ 覚えること（暗記）は不可欠ですが、丸暗記では役に立ちません。歴史事項の関連性を常に意識することが、授業でも復習でも肝要です。教養力・思考力</p> <p>※ 書物やテレビや映画などにおいて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。また、社会的出来事に日頃から関心を持ちましょう。志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
		表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力		志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	歴史的事象の仕組みや人間との関わりについて関心を持ち、積極的に課題を追求しようとする。	我が国の歴史についての理解をもとに、国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、自身の考えを言葉で表現する。	史料の内容を理解するだけでなく、その史料が編纂された歴史的背景についても考察し、発展的に歴史の流れを判断する。	歴史の系統的知識を身につけ、それらを統合し総合的観点から歴史の流れをとらえて理解し、物事を多角的・多面的にとらえる視点を身につけている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み	○小テスト ○課題への取り組み ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	第1章 日本文化のあけぼの ・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳とヤマト政権 第2章 律令国家の形成 ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・天平文化 ・平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 第4章 中世社会の成立 ・院政と平氏の台頭 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器、縄文及び弥生、古墳の各文化・時代の社会について比較・考察する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本における国家の形成と律令体制の確立の過程を理解する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、古代国家の展開・文化と、東アジア諸国との関係を考察する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 東アジア世界との関係の変化、荘園の成立過程について理解する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 公領の動きや武士の台頭など地方の動向に着目して、古代国家の変遷と国風文化の展開及び中世社会の芽生えについて理解する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかわりに着目して、武家政権の形成過程を理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
後 期	・元寇と幕府の衰退 ・鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場 第6章 幕藩体制の確立 ・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造 第7章 幕藩体制の展開 ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 鎌倉新仏教など文化に見られる新しい動きを理解し、その発生要因について考察し、様々な形で表現する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭に着目して、産業の発展や下剋上など中世社会の多様な展開について理解する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 武家、公家、民衆、それぞれが文化の発展にどう寄与したか、資料に基づいて考察する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 南蛮人の渡来と日本の変化を資料に基づいて読み解き、文章で適切に表現する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 幕藩体制の仕組みと鎖国形成の過程及びその影響を理解する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 初期の武断政治から文治政治への転換を理解する。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 太平の世の到来は、人々の生産活動を活発化させ、経済発展を呼び込む。こうした動きが社会の広範な領域に与えた影響を、多面的・多角的に考察する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理 A

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理 A	2年	2	高等学校 新版地理 A (第一学習社) 新詳高等地図 (帝国書院)	データブック オブ・ザ・ワールド2022 (二宮書店) 新詳地理資料COMPLETE2022 (帝国書院)

科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	① 単元ごとに課題、問いを設定し、地理に関わる諸事象について思考・判断しその結果を表現していきます。 思考力・表現力・協働力 ② 基礎的な用語をおさえ、その用語を図に表したり表にまとめたりすることで理解を深めます。 表現力・省察力 ③ 問題集を用いて知識の応用・定着を図ります。 教養力・志力 ※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておくことが、地理の学習の深化に繋がります。社会の変化にも目を向けてみましょう。			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
		表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力		志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、考察の過程や判断した結果を適切に表現する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料から有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■現代世界の特色と地域課題の地理的考察</p> <p>第1章 地球儀や地図でとらえる現代世界</p> <p>第2章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境</p> <p>第3章 世界の諸地域の生活・文化と環境</p>	<p>□□地図の特徴と欠点を理解し、用途に応じた図法を選択できるようになるとともに、衛星画像やGISなど新しい地図表現の役割を理解する。</p> <p>□□社会変化とともに、産業・国際貿易、国家間の結合などが活発化・複雑化していることを理解する。</p> <p>□□自然環境を地形と気候の面からとらえ、差異の理由、気候帯と生活との関わりについて理解する。</p> <p>□□世界の農業・鉱工業について、発達過程を地理的環境との関連で理解し、現在の分布状況や統計資料とあわせて考察する。</p> <p>□□世界の人々の生活・文化は、歴史や自然環境に影響を受けることを理解し、日本の生活・文化を絶対視することなく、広い視野から異文化を理解・尊重する態度を養う。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>
後 期	<p>第4章 私たちが直面する地球的課題</p> <p>■生活圏の諸課題の地理的考察</p> <p>第1章 日常生活と結びついた地図</p> <p>第2章 自然環境と防災</p> <p>第3章 生活圏の地理的な課題と地域調査</p>	<p>□□世界の諸地域の変化を資料から読み取り、他地域で暮らす人々の生活を想像する。</p> <p>□□各地域における自然環境や産業、民族・宗教分布とその背景を学び、日本や世界との結びつきについて考察する。</p> <p>□□様々な地球的課題について、課題の原因や背景について理解し、解決の方向性を調べ話し合う。</p> <p>□□国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。</p> <p>□□身近にあるさまざまな地図を通して、地図を読むことの楽しさを体験するとともに、地形図の特徴について理解し、新旧地形図の比較から地域の変化を読み取ることができるようになる。</p> <p>□□気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、グループで話し合う。地形の応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解する。</p> <p>□□人々の生活に大きな影響を与える災害について、自然現象や歴史を理解するとともに、ハザードマップを通して、減災に向けての取り組みや地域防災力を高めるために個人ができることを話し合う。</p> <p>□□日本の気候と農業、気候と河川の関係性について学習する。また、ハザードマップを読むなどの作業を通して、日ごろから備えることの重要性を理解する。</p> <p>□□地域調査の方法を理解し、統計を地理情報に加工できる地理的技能を習得する。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理 B	2年	3	新編 詳解地理 B 改訂版 (二宮書店) 新詳高等地図 (帝国書院)	データブック オブ・ザ・ワールド2022 (二宮書店) 新詳地理資料COMPLETE2022 (帝国書院)

科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	① 単元ごとに課題、問いを設定し、地理に関わる諸事象について思考・判断しその結果を表現していきます。 教養力・思考力・表現力 ② 基礎的な用語をおさえ、その用語を図に表したり表にまとめたりすることで理解を深めます。 表現力・協働力・省察力 ③ 問題集を用いて知識の応用・定着を図ります。 思考力・志力 ※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておくことが、地理の学習の深化に繋がります。社会の変化にも目を向けてみましょう。			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	○現代世界の地理的事象を系統地理的に、また現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識や地理的見方・考え方に関する関心と課題意識を高めたか。それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きるための責任を果たそうとしたか。	○現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しようとしたか。	○地図や統計、画像等の地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して、地理情報や地図の活用に関する技能を身につけたか。また、仮説を検証し、まとめ、発表する等の技能を身につけたか。	○地図の有用性を理解し、地図の活用に関する地理的スキルを理解し、身につけたか。 ○現代世界の諸事象を系統地理的に考察する方法と現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を理解し、身につけたか。 ○現代世界に関する地理的認識や地理的な見方・考え方を理解し、身につけたか
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■ 地図と地理的技能</p> <p>第 1 章 地理情報と地図</p> <p>第 2 章 地図と地域調査</p> <p>■ 現代世界の系統地理的考察</p> <p>第 1 章 自然環境</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> リモートセンシングやGISによる地図が地球の現状認識に役立つことに気づき、地理情報が生活と結びついていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 世界地図は球面上の情報をすべて正しく表現できないこと、地図の種類とそれぞれの特色を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 現代世界に関する統計を地理情報に加工できる、地理的技能を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 様々な地形の分布や形成要因から基礎的知識や概念を習得し、地形と生活との関係を考察する。地形図の読図に関する地理的技能を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 世界規模での気温・降水量・大気大循環・水の循環・土壌・植生、気候帯を取り上げ、その分布や形成要因、気候と人々の生活との関連について考察する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自然環境の諸問題に関する分布や形成要因を考察し、基礎的・基本的な知識を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 世界の農林水産業を取り上げ、それぞれの特色や分布についての、基礎的知識を習得する。世界や日本の食料問題・課題について理解する。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>
後 期	<p>第 2 章 資源と産業</p> <p>第 3 章 人口と村落・都市</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 世界の資源・エネルギーについての基礎的・基本的知識を習得する。世界や日本の資源・エネルギー問題を世界的視野に留意して概観させ、形成要因を考察させる。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 世界の工業の成り立ち・立地について、工業地域の形成と変容に関して考察させ、グローバル化する中での世界と日本の工業に関して世界的視野に留意して、それらの動向・形成要因について考察させる。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 世界の交通・情報通信・貿易・商業・観光について、基本的知識を習得し、それぞれの課題について考察する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 世界の人口分布、人口増加・人口構成について考察し、基本的知識を習得する。人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日本の人口問題についても考察する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 村落・都市に関する基本的知識を習得する。世界と日本の居住・都市問題の地域性や形成要因について世界的視野に留意して考察する。地形図の読図から村落の形態を読み取る地理的技能を習得する。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 現代社会

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代社会	2年	2	現代社会 (東京書籍)	新現代社会要点ノート (啓隆社) 最新図説 現社 (浜島書店)

科目の目標	広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。			
学習活動	① 単元ごとに課題、問いを設定し、演習ノート（サブノート）を主教材としながら、教科書、図説などを用いて、現代社会に関わる諸事象について思考・判断し、その結果を表現しながら学習していきます。 思考力・表現力・省察力・協働力 ② 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとに演習ノート（サブノート）の問題を繰り返し解くなどして知識の定着をはかりましょう。 教養力・志力 ③ 日頃より新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持つように心がけましょう。 志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題 発見・解決のための知識・ 技能	考察力：論理的に考え、批判 的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や 経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケ ーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、 改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に 人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	○現代社会の政治、 経済、社会、国際関係 などにかかわる基本的な 問題、人間にかかわる 事柄に関心を高め、意 欲的に追究しているか。 ○社会的事象を総合 的に考察しようとする態 度を身に付けているか。 ○平和で民主的なより よい社会の実現に向け て参加、協力する態度 を身に付けているか。	○現代社会の政治、 経済、社会、国際関係 などにかかわる基本的な 問題、人間にかかわる 事柄から課題を見いだ し、広い視野から多面 的、多角的に考察して いるか。 ○課題について社会の 変化や様々な立場、考 え方を踏まえ公正に判 断しているか。 ○課題についての考察 や判断の過程や結果を 様々な方法で適切に 表現しているか。	○現代社会の政治、 経済、社会、国際関係 などにかかわる基本的な 問題、人間にかかわる 事柄に関する諸資料を 収集し、有用な情報を 適切に選択することがで きるか。 ○得られた資料や情報 を効果的に活用し、学 び方を身に付けている か。	○現代社会の政治、 経済、社会、国際関 係、人間としての在り 方生き方にかかわる基 本的な課題や事柄に ついて理解し、その知 識を身に付けている か。また、学び方を身 に付けているか。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■わたしたちの生きる社会</p> <p>テーマ1 地球環境と資源・エネルギー</p> <p>テーマ2 科学技術の発達と生命</p> <p>テーマ3 情報化の進展と生活</p> <p>■現代の社会と人間</p> <p>第1章 青年期と自己形成の課題</p> <p>1 現代社会と青年の生き方</p> <p>2 よりよく生きることを求めて</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 現代社会の諸問題について自己との関わりに着目して追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 生涯における青年期の意義と自己形成の課題について心理的な側面から考える。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自己実現と職業生活・社会参加にふれながら、青年の生き方について自覚を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 個人と国家、基本的人権と法の支配について歴史的な流れに沿って理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本国憲法の基本原則を平和主義、人権保障と新しい人権、裁判所、国会、内閣、地方政治、世論などを国民生活との関わりから考える。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 基本的人権の保障や法の支配の実現が大切なのかを考え、それが現代社会においてどのように規定されているかを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自由と平等の関係を考え、他者と共存する社会を構築する意識を持つ。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>
後期	<p>第2章 日本国憲法と民主政治</p> <p>1 民主政治とは</p> <p>2 日本国憲法の基本原理</p> <p>3 日本の政治機構</p> <p>第3章 個人の尊重と法の支配</p> <p>1 個人の尊重と法の支配</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 個人と国家、基本的人権と法の支配について歴史的な流れに沿って理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本国憲法の基本原則を平和主義、人権保障と新しい人権、裁判所、国会、内閣、地方政治、世論などを国民生活との関わりから考える。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 基本的人権の保障や法の支配の実現が大切なのかを考え、それが現代社会においてどのように規定されているかを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自由と平等の関係を考え、他者と共存する社会を構築する意識を持つ。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅱ	2年	3	改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	改訂版クリアー数学Ⅱ B (数研出版) 増補改訂版チャート式数学Ⅱ B (数研出版)

科目の目標	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

※理系は数学Ⅱの履修終了後、数学Ⅲを履修します。次ページの年間指導計画は文系のものです。

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3章 図形と方程式 2 円 3 軌跡と領域	<input type="checkbox"/> 座標平面上において、2点間の距離が求められる。 <input type="checkbox"/> 2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 <input type="checkbox"/> 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用できる。 <input type="checkbox"/> 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 <input type="checkbox"/> 円と直線の交点の個数を、判別式や点と直線の距離を活用して判断できる。 <input type="checkbox"/> 点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第4章 三角関数 1 三角関数 2 加法定理	<input type="checkbox"/> 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数の周期とグラフの形の関係、定義域に注意して正しいグラフがかけられる。 <input type="checkbox"/> 三角関数を含む方程式、不等式を解く際に単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 <input type="checkbox"/> 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数の合成や各公式を活用して、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	
後期	第5章 指数関数と対数関数 1 指数関数 2 対数関数	<input type="checkbox"/> 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 <input type="checkbox"/> 指数関数、対数関数を活用して、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 常用対数を利用して、桁数や小数首位を求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第6章 微分法と積分法 1 微分係数と導関数 2 関数の値の変化 3 積分法	<input type="checkbox"/> 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 <input type="checkbox"/> 不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 <input type="checkbox"/> 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅲ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅲ	2年 理系	1	改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	改訂版クリアー数学Ⅲ (数研出版) 改訂版チャート式数学Ⅲ (数研出版)

科目の目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後期	第3章 関数	<input type="checkbox"/> 分数関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 分数関数の $y = \frac{ax+b}{cx+d}$ を $y = \frac{k}{x-p} + q$ の形に変形し、漸近線を求めてグラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> グラフを利用することで、分数不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 連立方程式を解くことで、無理関数のグラフと直線の共有点の座標を求めることができる。 <input type="checkbox"/> グラフを利用することで、無理不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 合成関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の合成関数を求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	第4章 極限 1 数列の極限 2 関数の極限	<input type="checkbox"/> 数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 不定形を解消するなど、数列の式を適切に変形することで、収束・発散を調べることができる。 <input type="checkbox"/> 数列の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 無限等比数列を、公比の値で場合分けしその極限を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 無限級数の収束・発散を、部分和の極限を調べることで考察することができる。 <input type="checkbox"/> 無限級数、無限等比級数の定義を理解し、収束・発散について調べることができる。 <input type="checkbox"/> グラフを参考にしながら、関数の右側極限、左側極限、関数の極限の有無について考察することができる。 <input type="checkbox"/> $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ を利用して、三角関数を含む様々な関数の極限值を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 B	2 年	2	改訂版 高等学校 数学 B (数研出版)	改訂版クリアー数学 II B (数研出版) 増補改訂版チャート式数学 II B (数研出版)

科目の目標	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 <u>教養力・思考力</u> ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 <u>思考力・省察力</u> ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 <u>思考力・表現力・志力</u>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3章 数列 1 等差数列と等比数列 2 いろいろな数列 3 数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 初項と公差を文字で表して、条件から等差数列の一般項を決定できる。 <input type="checkbox"/> 等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 初項と公比を文字で表して、条件から等比数列の一般項を決定できる。 <input type="checkbox"/> 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 <input type="checkbox"/> 種々の数列の和を工夫して求めることができる。 <input type="checkbox"/> 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 <input type="checkbox"/> 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	第1章 平面上のベクトル 1 ベクトルとその演算 2 ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みを理解している。 <input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解している。 <input type="checkbox"/> 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線の方程式と関連付けることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 <input type="checkbox"/> 空間のベクトルを与えられた3つのベクトルで表すことができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎（2年文系）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理	2年 文系	1	考える物理基礎 (啓林館)	実験プリント 問題プリント

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働能力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。思考力・省察力・協働能力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心を持ち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期 後期	以下すべての既習分野 ・力学 ・波 ・熱 ・電磁気 ・エネルギー	<input type="checkbox"/> 問題設定を理解し、必要な情報を作図を用いて説明できる。 <input type="checkbox"/> 問題設定から関係する物理量が何かを把握し、論理的に説明できる。 <input type="checkbox"/> 温度と熱の区別ができ熱の特性を知り、熱に関する現象を論理的に説明できる。 <input type="checkbox"/> 回路図の要点、電場や磁場の様子、関係する物理量が何かを把握し、論理的に説明できる。 <input type="checkbox"/> 発電のメカニズムが理解でき、原子の構成と特性を把握し、論理的に説明できる。	単元ごとに、前述の学習活動の①～④をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理	2年 理系	2	物理 (啓林館)	ステップアップノート物理 (啓林館) 物理図録 (数研出版)

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働能力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。思考力・省察力・協働能力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心を持ち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体 第3章 運動量の保存 第4章 円運動と万有引力	<input type="checkbox"/> 平面上の運動を表す変位、速度、加速度をベクトル的に扱い、運動の3法則が成り立つことを理解する。 <input type="checkbox"/> 運動量や力積という物理量を知り、運動量保存の法則が成り立つことを理解する。 <input type="checkbox"/> 等速円運動の様子を数量的に表す方法を学習し、天体の運動と万有引力の法則について理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	<input type="checkbox"/> 原子・分子の運動、温度や圧力の変化によって物質の状態変化が起こることを理解する。 <input type="checkbox"/> 理想気体の状態方程式や分子運動と絶対温度との関係、ミクロな立場からの比熱について理解する。	
後期	第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 第3章 光	<input type="checkbox"/> 波の表し方と横波・縦波について観察を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 音の様々な現象について、波の観点から観察、実験を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 光の様々な現象について波の観点から観察、実験を通して理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎 (2年文系)

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎 (文系)	2年	2	改訂 化学基礎 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。						
学習活動	<p>① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組ましよう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。表現力・省察力・協働力</p> <p>② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。思考力・省察力・志力</p> <p>③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。教養力・表現力・協働力</p> <p>④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましよう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑤ 日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。教養力・志力</p>						
未来開拓力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 </td> </tr> </table>				教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力					
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解			
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査			

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■第2章 物質の変化</p> <p>第1節 物質と化学反応式</p> <p>第2節 酸と塩基の反応</p>	<p><input type="checkbox"/> 元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質とその応用を理解する。アボガドロ定数の確認について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の溶解と濃度について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 化学反応における量的関係について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義を理解する。酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 中和を理解し、塩の種類を理解する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。中和滴定について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>第3節 酸化還元反応</p>	<p><input type="checkbox"/> 酸化・還元の定義を理解する。酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解する。金属のイオン化傾向について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸化還元反応の利用例として、電池の原理を学習する。酸化還元反応の利用例として、金属の製錬を学習する。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎 (2年理系)

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎 (理系)	2年	1	改訂 化学基礎 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。						
学習活動	<p>① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組ましよう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。表現力・省察力・協働力</p> <p>② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。思考力・省察力・志力</p> <p>③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。教養力・表現力・協働力</p> <p>④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましよう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑤ 日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。教養力・志力</p>						
未来開拓力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 </td> </tr> </table>				教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力					
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解			
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査			

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■第2章 物質の変化</p> <p>第1節 物質と化学反応式</p> <p>第2節 酸と塩基の反応</p> <p>第3節 酸化還元反応</p>	<p><input type="checkbox"/> 元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質とその応用を理解する。アボガドロ定数の確認について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の溶解と濃度について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 化学反応における量的関係について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義を理解する。酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 中和を理解し、塩の種類を理解する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。中和滴定について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸化・還元の定義を理解する。酸化剤、還元剤について理解し、それらの反応を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解する。金属のイオン化傾向について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸化還元反応の利用例として、電池の原理を学習する。酸化還元反応の利用例として、金属の製錬を学習する。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学	2年	2	改訂 化学 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。						
学習活動	<p>① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組ましよう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。表現力・省察力・協働力</p> <p>② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。思考力・省察力・志力</p> <p>③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。教養力・表現力・協働力</p> <p>④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑤ 化学の基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な自然観を養うために、日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。教養力・志力</p>						
未来開拓力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 </td> </tr> </table>				教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力					
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解			
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査			

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後 期	<p>■第I章 物質の状態</p> <p>第1節 化学結合と結晶</p> <p>①化学結合と結晶の種類</p> <p>②金属結晶の構造</p> <p>③イオン結晶の構造</p> <p>④共有結合の結晶の構造</p> <p>⑤分子間力と分子結晶</p> <p>⑥非晶質</p> <p>第2節 物質の三態と熱運動</p> <p>①物質の三態とその変化</p> <p>②気体分子の熱運動と圧力</p> <p>③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線</p> <p>④物質の融点・沸点と化学結合</p> <p>第3節 気体の性質</p> <p>①気体の体積変化</p> <p>②気体の状態方程式</p> <p>③理想気体と実在気体</p> <p>4節 溶液の性質</p> <p>①溶解と溶液</p> <p>②希薄溶液の性質</p> <p>③コロイド</p>	<p><input type="checkbox"/> 化学結合と結晶の性質について、復習する。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属結晶・イオン結晶・共有結合の結晶の構造について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 分子間の結合、および分子結晶の性質や非晶質について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の三態変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 気体分子の熱運動を復習し、気体の圧力が気体分子の熱運動と密接に関係することを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 飽和蒸気圧を学習し、飽和蒸気圧と沸騰の関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 化学結合と物質の融点・沸点との関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し、その応用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 気体の状態方程式を理解し、その応用を理解する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 理想気体と実在の気体との違いを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 溶解のしくみを理解し、溶解度について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の定量的な取り扱いを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> コロイドを理解し、その溶液の性質を理解する。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物基礎	2年	1	生物基礎 (第一学習社)	生物基礎の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ生物図表(浜島書店) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	科学に関する課題を設定し、観察、実験などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う。			
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。思考力・省察力・協働力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な生物現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	<input type="checkbox"/> 真核細胞には共通の構造があることを観察を通して理解を深める。 <input type="checkbox"/> 原核細胞の観察を通して理解を深める。 <input type="checkbox"/> 酵素の反応について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 遺伝子の本体であるDNAについて理解を深める。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境	<input type="checkbox"/> 脊椎動物の血液の形態の違いについて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 脊椎動物の血液の形態の違いについて理解を深める。 <input type="checkbox"/> ブタの腎臓を観察することで、腎臓について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 免疫による生体防御のしくみについて理解を深める。	
後期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全	<input type="checkbox"/> 生態系を構成する生物の役割について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 生態系における窒素の循環について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 植物群落の調査を模擬実験し、群落調査の方法についての理解を深める。 <input type="checkbox"/> 溶岩台地上で生じる遷移についての理解を深める。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物	2年	2	生物 (第一学習社)	生物の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ生物図表(浜島書店) セミナー生物(第一学習社) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。思考力・省察力・協働力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確認めよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な生物現象について関心を持ち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	■細胞と分子 第1節 生体物質と細胞 第2節 細胞膜の働きとタンパク質 第3節 さまざまなタンパク質の働き	<input type="checkbox"/> 細胞を構成する物質について理解する。特に、タンパク質については、基本的な構造を学習したうえで、酵素など、その立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解する。 <input type="checkbox"/> 細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて理解する。生体膜や細胞骨格については、その構造や機能を理解する。 <input type="checkbox"/> 細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	■代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 炭酸同化 第3節 窒素同化 第4節 異化	<input type="checkbox"/> 代謝には同化と異化があることを理解し、両者の違いを説明できる。 <input type="checkbox"/> 植物の光合成と細菌の光合成・化学合成との違いを理解する。 <input type="checkbox"/> 植物の窒素同化の反応を科学的に理解し、窒素同化と窒素固定の違いを理解する。 <input type="checkbox"/> 呼吸と発酵の違いについて意欲的に学習しようとする。	
後期	■遺伝情報の発現 第1節 遺伝情報とその発現 第2節 遺伝子の発現調節 第3節 バイオテクノロジー	<input type="checkbox"/> 「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。その際、遺伝情報の変化についても学習する。 <input type="checkbox"/> 遺伝子の発現調節の概要を、転写レベルの調節を中心に理解する。 <input type="checkbox"/> 遺伝子を扱ったバイオテクノロジーについて学習し、その原理と有用性を理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	■生殖と発生 第1節 有性生殖における遺伝的多様性 第2節 動物の配偶子形成 第3節 動物の発生	<input type="checkbox"/> 染色体に遺伝子が存在することを学習し、有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 <input type="checkbox"/> 配偶子の形成過程を科学的に理解する。精子の構造を理解し、受精の際に起こるさまざまな反応に関心を持ち、意欲的に学習する。 <input type="checkbox"/> 受精卵と卵割について理解する。ウニ・カエルの発生過程に関心を持ち、理解する。 <input type="checkbox"/> 多くの器官は、内胚葉、中胚葉、外胚葉から分化した組織が集まって形成されていることを科学的に理解する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育

科目	学年	単位数	教科書	副教材
体育	2年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)

科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			
学習活動	①運動の合理的、計画的な実践や体育理論の学習を通して、知識や技能を高め、課題の解決に向けて取り組むことにより、運動のもつ特性や魅力に触れ、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。 <u>教養力</u> ②各種の運動を合理的に行うことにより、体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力、生活に応じた運動の計画を立て、主体的に取り組むことができる能力を養います。 <u>思考力・省察力・協働力・志力</u> ③運動における競争や協働の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす、チームやグループの意志決定に参画するなどの態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して運動することができる能力や態度を身に付けます。 <u>思考力・省察力・表現力・協働力</u>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力			
評価の観点及び評価規準	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	知識・理解
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○活動状況の観察 ○課題への取組	○グループ活動状況の観察 ○グループノート記入 ○感想レポート	○パフォーマンステスト ○新体力テスト ○授業状況の観察	○知識理解テスト ○体育理論テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	オリエンテーション 集団行動 体づくり運動 陸上競技 バレーボール（兼球技大会練習） 選択制授業Ⅰ（以下から1つ） ・ソフトボール ・器械運動（マット運動） ・ダンス 選択制授業Ⅱ（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス ・ソフトボール ・陸上競技 （体育館） ・バドミントン ・卓球	（通年で） <input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> グループノートを用いて、授業計画を綿密に立てることができる。 <input type="checkbox"/> 足のリズムを合わせて、大きな声を出し、列を揃えて、集団走ができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、グループで協力して活動することができる。 <input type="checkbox"/> 意欲的に練習に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> グループ全員の技能上達を目指して、互いにアドバイスをし合うことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、4つの観点について評価をおこなう。
後期	選択制授業Ⅲ（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・バスケットボール ・ソフトボール ・バレーボール ・テニス ・ソフトボール ・陸上競技 （体育館） ・バドミントン ・卓球		
前期 末 と 後 期 末	体育理論 ・運動やスポーツの技術と技能 ・運動やスポーツ技術の上達過程 ・運動やスポーツの技能と体力の関係 ・運動やスポーツにおける活動時の健康、安全の確保の仕方	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内でしっかり発言できる。 <input type="checkbox"/> グループ内で他の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内の意見をまとめて、全体へ向けて発表できる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。	「学習活動」の①をおこない、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 保健

科目	学年	単位数	教科書	副教材
保健	2年	1	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	図説 現代校保健体育 (大修館書店)

科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
学習活動	①生涯の各段階における健康についての課題を理解し、社会生活における健康の保持増進のために必要な知識と技能を身に付けます。 教養力・省察力・志力 ②課題学習では、個人または仲間と協力しながら、環境問題など我が国や世界が抱える問題について、自ら課題を見つけだし、自ら考え、試行錯誤しながら、主体的に取り組むことができる能力を養います。 教養力・思考力・表現力・協働力 ③体験的な学習では、仲間と協力しながら、自分と他者の健康について考え、生涯にわたり健康で安全な生活ができるよう必要な知識と技能を身に付けます。 教養力・思考力・協働力・志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	健康・安全への関心・意欲・態度	健康・安全についての思考・判断	健康・安全についての知識・理解
	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○授業状況の観察 ○課題、ノートへの取組	○定期考査 ○確認テスト ○グループ活動の観察	○定期考査 ○確認テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>生涯を通じる健康 ア) 生涯の各段階における健康 ・思春期と健康 ・結婚生活と健康 ・加齢と健康</p> <p>イ) 保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用 ・保健制度と保健サービスの活用 ・医療制度と医療費 ・医療機関と医療サービスの活用</p>	<p><input type="checkbox"/> 思春期における心身の発達や健康問題について、特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 加齢に伴い、心身が変化することを形態面及び機能面から理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 我が国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、総合的な保健・医療サービスが提供されていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 生涯を通じて健康を保持増進するためには自己の健康上の課題を的確に把握し、各医療機関及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることを理解する。</p>	<p>講義型授業や、個人または班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>
後期	<p>社会生活と健康 ア) 環境と健康 ・環境の汚染と健康 ・健康被害の防止と環境対策</p> <p>イ) 環境と食品の保健 ・環境衛生活動のしくみと働き ・食品衛生活動のしくみと働き ・食品と環境の保健と私たち</p> <p>ウ) 労働と健康 ・職業病や労働災害と健康 ・健康的な職業生活</p>	<p><input type="checkbox"/> 人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などは人々の健康に影響を及ぼしたり被害をもたらすことがあることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 健康への影響や被害を防止するためには、環境の汚染について発生の防止及び改善の対策が必要であることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 上下水道の整備、廃棄物処理などの環境衛生活動は、自然や社会生活における環境と健康を守るために行われていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 食品の安全性の確保は、食品衛生法などに基づいて行われていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 環境と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 職業病や労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴いその質や量が変わってきたことを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 働く人の健康の保持増進は、職場の安全管理や健康管理と共に心身の両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解する。</p>	<p>講義型授業や、個人または班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>

指導と評価の年間計画 音楽 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽 I	2年 (文系)	2	MOUSA 1 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。			
学習活動	<p>・毎回の授業で、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。 <u>教養力・表現力・思考力・省察力・協働力・志力</u></p> <p>・歌唱と器楽では、一人での演奏や少人数でのアンサンブル、全員での合唱というように、様々な編成での表現に取り組みます。仲間と聴き合い、演奏におけるアイデアを積極的に試みましょう。 <u>表現力・思考力・省察力・協働力・志力</u></p> <p>・音楽鑑賞は、聴いて楽しむことに留まらず、得た知識から音楽を分析したりイメージしたりすることにより、新たな魅力に気づいていきましょう。<u>教養力・思考力・表現力</u></p> <p>・創作では、一人一曲、作曲をします。学んだ事を生かし、音を使って0から1を創り出す面白さを感じましょう。人によって完成する曲は様々です。人との違いを発見する楽しさも感じられます。また作曲をするには楽譜を読む、書くことが必要になりますが、小中学校で学んだ基礎的なことも学習しますので、苦手な人もこの機会に読めるようになり、音楽を今までとは違う視点で楽しみましょう。<u>教養力・表現力・思考力・省察力・志力</u></p> <p>【音楽関係の進路について】 音楽関係の進学（教育学部の音楽専修、音楽大学、専門学校など）は、入試で実技試験が課せられます。実技の能力は短期間で身に付くものではありませんので、早めに準備に取りかかってください。実技の必要な進路を考えている人は、できるだけ1年生のうちに教科担当に相談してください。</p>			
	未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○鑑賞レポート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○実技テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○実技テスト ○筆記テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○鑑賞レポート ○筆記テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> 発声の基礎 校歌 独唱曲 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの奏法 リコーダーアンサンブル ギターアンサンブル ■ 創作 <ul style="list-style-type: none"> 音楽理論 旋律の変奏 ボディーパーカッション ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> オーケストラ作品 協奏曲 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 歌唱表現を深めていくために必要な、基礎的な技術を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 歌詞の意味を正しく理解し、旋律と歌詞の両面から捉えた表現を考え、それらをふまえて歌うことができる。 <input type="checkbox"/> 呼吸や運指を理解し、音色やアーティキュレーション等の変化をつけて表現する。 <input type="checkbox"/> アンサンブルにおける調和を工夫する <input type="checkbox"/> ギターの基本的な奏法を学習し、奏法の工夫による演奏効果を表現に活用する。 <input type="checkbox"/> 基礎的な記譜方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 旋律の変奏について学ぶ。 <input type="checkbox"/> 基礎的なリズムの読譜力を身につける。 <input type="checkbox"/> 作曲者の意図を汲み取りながら、音楽の特徴を感じとり、そのよさをあじわう。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。</p> <p>作品の創作にも取り組む。</p> <p>年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> 日本歌曲独唱 混声3部合唱 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> ギター独奏（コード） 篠笛 ■ 創作 <ul style="list-style-type: none"> 作曲 ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統音楽 舞台音楽 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 歌い合わせる力を伸ばし、一体感のある音色で、各パートと全体の調和を図る。 <input type="checkbox"/> 言葉のもつ語感を音楽と関わらせ、音楽を分析しながら表現の工夫を考える。 <input type="checkbox"/> コードの仕組みについて理解し、その働きを感じ取りながら弾き歌いで表現する。 <input type="checkbox"/> 篠笛特有の奏法に触れ、簡単な曲を演奏体験する。 <input type="checkbox"/> 旋律の作り方について理解し、自己のイメージにこだわりながら、簡単な曲作りを行う。 <input type="checkbox"/> 作曲者・出演者・演出家などの意図、作品の特徴などについての考察を通し、舞台芸術や伝統文化に対する理解を深める。 <input type="checkbox"/> それぞれの文化の特徴を把握し、比較しながら、そのよさを味わう。 	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
美術Ⅰ	2年 (文系)	2	高校美術 1 日本文教出版	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学習活動	・進路に必要な実技を身につける科目です。 教養力・思考力・表現力・省察力・協働力・志力 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱うなど柔軟に学びます。			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・見解のための知識・技能	思考力：倫理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	日常生活における美術やデザインの持つ役割や美術文化について幅広く理解し、その価値を考え、作品のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■自由制作①（デッサン・着彩・その他） ■自由制作②（デッサン・着彩・その他） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通) <input type="checkbox"/>自分の進路に応じた課題を選び制作する。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■自由制作③（デッサン・着彩・その他） ■自由制作④（デッサン・着彩・その他） ■自由制作⑤（デッサン・着彩・その他） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通) <input type="checkbox"/>自分の進路に応じた課題を選び制作する。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道 I	2年 (文系)	2	書 I (光村図書)	なし

科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			
学習活動	<p>・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」の4つの分野を幅広く学びます。教養力・思考力・表現力・省察力</p> <p>・授業は、臨書を中心に行います。「臨書」とは、すぐれた古典を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な知識と、幅広い表現技法を身に付けます。そして、臨書で身に付けた力を活かして創作にも取り組みます。教養力・思考力・表現力・協働力・志力</p> <p>※作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かしていきましょう。教養力・思考力・表現力・省察力・協働力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：倫理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とのコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	書への関心・意欲・態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の構想と工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現の技能 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付けている。	鑑賞の能力 日常生活における書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■ 書写から書道へ</p> <p>■ 漢字の書（楷書） さまざまな楷書作品の臨書と鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛橛造像記 <p>・楷書創作</p> <p>■ 篆刻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の姓名印をつくる 	<p><input type="checkbox"/> 「書写」と「書道」の関連と違いについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 各古典の特徴を理解し、用筆法を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> 書道史をはじめとする理論を学び、古典作品の背景を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 字典の使い方と書体の判別ができるようになる。</p> <p><input type="checkbox"/> 古典臨書で学んだ用筆法や運筆法を活かして漢字創作を行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 印稿を工夫し、創造的に表現する。</p> <p><input type="checkbox"/> 執刀法を身につけ、彫り残しなく最後まで仕上げることができる。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>■ 漢字の書（行書、草書、隸書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘭亭序（条幅作品の制作） ・風信帖 ・真草千字文 ・曹全碑 <p>■ 仮名の書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単体 ・連綿 ・蓬萊切 ・高野切第三種 <p>■ 漢字仮名交じりの書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ言葉を書く ・完成作品の鑑賞会 <p>■ 生活の中の書</p>	<p><input type="checkbox"/> 蘭亭序及び、王羲之について学び、作品にまつわるエピソードや古典の概要を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 行書、草書、隸書体の特徴を理解し、基礎的な表現ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 仮名の変遷、種類、歴史的背景を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 単体・連綿の表現方法を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 文字群と余白の配置などによって変わる効果を理解し、表現を構想することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 古典を応用した書の幅広い表現方法を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 運筆・用筆の違いによる変化を理解し、作品へ生かすことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 文字と余白の関係を理解し、全体構成を工夫することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 制作の意図や表現の工夫点、他の生徒の作品を鑑賞し、自分の言葉で表現することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 冠婚葬祭の書のマナーを身に付けることができる。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 コミュニケーション英語Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
コミュニケーション英語Ⅱ (英語ⅡA)	2年	4	LANDMARK English CommunicationⅡ (啓林館)	・LANDMARK English CommunicationⅡ ワークブック Standard (啓林館) ・総合英語 Vision Quest Ultimate(啓林館) ・システム英単語 (駿台文庫)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。			
学習活動	<p>①「予習－授業－復習」のサイクルを習慣化する 予習では授業に必要な準備をします。予め理解しておかなければならないことを予習で準備し、授業に臨むことが大切です。意味のある時間にするためには、予習は欠かせません。予習と授業で十分に内容を理解した上で、徹底した復習で習った英語を定着させることが大切です。この学習サイクルを身につけ「英語」に対する理解を積み重ねていけば、テストでも実力を発揮できます。</p> <p>②授業中はしっかり活動する 高校での英語の勉強は、机に座ってただ先生の解説を聞くだけの受身的な授業では力がつきません。クイックレスポンスや音読に積極的に取り組み、英語を使うことに慣れていきましょう。授業中の小テスト、音読・暗写などの活動は前期末および学年末の評価(5段階)に得点として入れていきます。主体的に学習活動に取り組みましょう。</p> <p>③習ったその日に復習を 習ったところは声に出して音読をし、英語を身体、頭の中に取り入れ(input)、さらに繰り返し音読をすることで英語を深く自分の中に定着させます(intake)。目から情報を入力するだけでなく、口から発音し、自分の声を耳で聞き、ときに書いてみてあらゆる感覚を駆使して、学習した英語を自分の中に定着させましょう。</p>			
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 	
評価の観点及び評価規準	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <p>コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。</p>	<p>外国語表現の能力</p> <p>英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。</p>	<p>外国語理解の能力</p> <p>英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。</p>	<p>言語や文化についての知識・理解</p> <p>英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題テスト

年間計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■ Preparatory Lesson 英文の展開パターンとディスコースマーカ-</p> <p>■ Lesson 1 <スポーツ・生き方> I'm the Strongest!</p> <p>■ Lesson 2 <職業・日本文化> Tokyo's Seven-minute Miracle</p> <p>■ Lesson 3 <動物・外国> Saint Bernard Dogs</p> <p>■ Lesson 4 <女性・生き方> Chanel's Style</p> <p>■ Lesson 5 <心理・科学> Science of Love</p>	<p>英文を読むのに役立つディスコースマーカの知識を身に付ける。</p> <p><input type="checkbox"/> 車いすテニスプレイヤー国枝慎吾選手について理解する。 <input type="checkbox"/> 一生懸命取り組んでいることについてエッセイを書く。</p> <p><input type="checkbox"/> 日本の新幹線車内の清掃技術について理解する。 <input type="checkbox"/> 世界に誇れる日本独自の技術や文化について意見交換する。</p> <p><input type="checkbox"/> スイスの国犬セントバーナードの歴史を理解する。 <input type="checkbox"/> 人間と親しい関係を築く動物について情報交換をする。</p> <p><input type="checkbox"/> ファッション界のカリスマ、シャネルの生き方や服を作った時代背景について理解する。 <input type="checkbox"/> 好きな革新的人物についてエッセイを書く。</p> <p><input type="checkbox"/> 科学で解明する恋に落ちる原因について理解する。 <input type="checkbox"/> 本文中の3つの学説で、どの学説に興味があるかとその理由について意見交換する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>
後 期	<p>■ Lesson 6 <芸術・生き方> Gaudi and His Messenger</p> <p>■ Lesson 7 <戦争・平和> Letters from a Battlefield</p> <p>■ Lesson 8 <環境・歴史> Edo: A Sustainable Society</p> <p>■ Lesson 9 <科学・生活> AI and Our Future</p> <p>■ Lesson 10 <外国・国際社会> Bhutan: A Happy Country</p>	<p><input type="checkbox"/> ガウディーとサグラダ・ファミリアの歴史を理解する。 <input type="checkbox"/> ガウディーと外尾についてエッセイを書く。</p> <p><input type="checkbox"/> 硫黄島の戦いと兵士が家族に宛てた手紙について理解する。 <input type="checkbox"/> レッスン本文を読んだエッセイを書く。</p> <p><input type="checkbox"/> 今日のごみ問題、江戸時代のリサイクル社会について理解する。 <input type="checkbox"/> 「もったいない」と思うものについて意見交換する。</p> <p><input type="checkbox"/> AIが社会に及ぼす影響を理解する。 <input type="checkbox"/> 人間とAIとの在り方についてエッセイを書く。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界一幸福な国ブータンの地理と歴史、幸福観、政府の政策を理解する。 <input type="checkbox"/> 国民総幸福量を上げるための策についてエッセイを書く。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語表現Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語表現Ⅱ (英語ⅡB)	2年	2	Vision Quest English Expression Ace (61 啓林館 英Ⅱ 322)	・総合英語 Vision Quest Ultimate(啓林館) ・システム英単語 (駿台文庫)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。			
学習活動	<p>①例文の内容を理解し、自然な音読ができるまで練習し、暗唱する。</p> <p>②文法項目の確認と、Build-up/Expressionの文法項目/表現の理解</p> <p>③Practiceなどを活用し、文法項目と表現の定着と、日本語から英語への自動化を図る。</p> <p>④学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に表現する。</p> <p>以下の学習に対する姿勢が、日々の学習活動①～④を支える大切な柱となります。</p> <p>1)「予習－授業－復習」のサイクルを習慣化する： あらかじめ自分の理解できることとできないことを明確にして授業に臨むことが大切。予習、授業で内容を十分に理解した上で、徹底した復習で定着させることが大切です。この学習サイクルを身につけ努力を積み重ねていけば、英語を必要とする様々な場面で実力を発揮できます。</p> <p>2)授業中はしっかり活動する： 英語の勉強は先生の解説を聞くだけの受身的な姿勢では力がつきません。学習した内容を音読練習や意見交換など様々なペアワークやグループワークでのアウトプットを通して、英語で考え、クイックレスポンスを意識して積極的に活動し、英語を使うことに慣れていきましょう。</p> <p>3)習った日に復習する： 習ったところは声に出して音読をし、英語を身体、頭の中に取り入れ(input)、さらに繰り返し音読をすることで英語を深く自分の中に定着させます(intake)。目から情報を入手するだけでなく、口から発音し、自分の声を耳で聞き、ときに書いてみてあらゆる感覚を駆使して、学習した英語を自分の中に定着させましょう。</p>			
	未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動	
前期	Part 1 Lesson 1 お花見 Lesson 2 漫画の楽しみ Lesson 3 京都へ観光に Lesson 4 私の家族です Lesson 5 保育園での授業体験 Lesson 6 サプライズパーティー Lesson 7 映画のお誘い Lesson 8 航空管制官になる Lesson 9 趣味はピアノ Lesson 10 『タイタニック』を見て Lesson 11 世界遺産の魅力 Lesson 12 ボランティア活動 Lesson 13 制服に賛成？ 反対？ Lesson 14 ローマの魅力 Lesson 15 思い出の写真 Lesson 16 科学技術の利用 Lesson 17 携帯電話は便利だけど…	<input type="checkbox"/> 主語の決定/見えない主語の発見/主語のit <input type="checkbox"/> 主語になる名詞句/形式主語 <input type="checkbox"/> 無生物主語 <input type="checkbox"/> 自動詞と他動詞/間違えやすい自動詞と他動詞/群動詞 <input type="checkbox"/> SVO/SVOO <input type="checkbox"/> SVC/SVOC <input type="checkbox"/> 使役動詞/知覚動詞 <input type="checkbox"/> 直接話法と間接話法/間接話法で伝達 <input type="checkbox"/> 「～する」/「～している」 <input type="checkbox"/> 「～した」/「～していた」 <input type="checkbox"/> 能動態と受動態/日本語との違い <input type="checkbox"/> 「もし(今)～ならば」/「もし(あの時)～だったなら」 <input type="checkbox"/> 義務・必要を表す/推量を表す 助動詞 <input type="checkbox"/> 数量を表す語句/名詞を前から修飾する語句 <input type="checkbox"/> 名詞を後ろから修飾する①/② <input type="checkbox"/> 関係代名詞/関係副詞 <input type="checkbox"/> 副詞・副詞句/不定詞や分詞を使った副詞句 <input type="checkbox"/> 副詞節①/②	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④を行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。	
	後期	Lesson 18 犬派？ 猫派？ Lesson 19 思い出深いプレゼント Lesson 20 インターネットの問題点 Part 2 Lesson 1 文と文をつなぐ Lesson 2 ロボットの有用性 Lesson 3 英語を学ぶ意義 Lesson 4 都会と田舎 Lesson 5 深刻な黄砂問題 Lesson 6 ベジタリアン Lesson 7 リスニングの要約 Part 3 Lesson 1 プレゼンテーション (Presentation) Lesson 2 ディスカッション (Discussion) Lesson 3 デイバート (Debate)		<input type="checkbox"/> 原級/比較級 <input type="checkbox"/> 最上級/最上級を意味する表現 <input type="checkbox"/> no + 名詞, no-で始まる代名詞/部分否定/準否定 <input type="checkbox"/> 文と文をつなぐ <input type="checkbox"/> パラグラフの構成/列挙・順序 <input type="checkbox"/> 例示・追加 <input type="checkbox"/> 比較・対照 <input type="checkbox"/> 原因・理由・結果 <input type="checkbox"/> リーディングの要約 <input type="checkbox"/> リスニングの要約 <input type="checkbox"/> ブレインストーミング <input type="checkbox"/> 資料を探す <input type="checkbox"/> アウトラインの作成 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの原稿/表現 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの準備/実施 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの質疑応答 <input type="checkbox"/> 発表者の評価 <input type="checkbox"/> Practice <input type="checkbox"/> ディスカッションの進め方/例 <input type="checkbox"/> ディスカッションに役立つ表現 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> Practice <input type="checkbox"/> デイバートの進め方/デイバートの準備 <input type="checkbox"/> デイバートを行う上での注意点/判定/表現 <input type="checkbox"/> Practice

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 GLOBAL ENGLISH II

科目	学年	単位数	教科書	副教材
GLOBAL ENGLISH II	2年	1		<ul style="list-style-type: none"> ・Revised LANDMARK English Communication I(啓林館) ・速読英単語入門編 (Z会出版)

科目の目標	情報を伝えたり、意見交換をしたりするための基本となる知識を身につけ、自分の意見や考えをまとまりのある英語でアウトプットしたりすることで、リスニング・スピーキングを中心とした5領域にわたる英語運用能力を伸長させる。			
学習活動	(1) サマライジング 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、また既習の英文の内容について、聞いたり読んだりした概要をまとめる活動 【思考力】【表現力】			
	(2) インタクション 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、ペアで意見交換する活動。既習の英文の内容についてグループで意見交換する活動 【教養力】【表現力】 【教養力】【表現力】			
未来開拓力	(3) プレゼンテーション 既習の英文のトピックについて書いた意見を相手に伝える活動 (ポスター発表等) 【思考力】【表現力】【協働力】			
	(4) オンライン英会話 ネイティブスピーカーとのマンツーマンのオンライン英会話 【表現力】【省察力】			
	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	
評価の観点及び評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語を聞いて反射的に答えようとする姿勢がある。	与えられた状況において英語で適切に話したり伝えたり、自らの意見を適切な表現を用いて伝えたりすることができる。	話し相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に応答したり、発表者や発言者の言ったことを正しく聞き取ったりすることができる。	様々なトピックについて内容やその背景等を理解したり、各レッスンで学んだ文法・表現を理解したりし、知識として定着させている。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	ターム①：Listening中心の活動 ・What Can Blood Type Tell Us ? ・Curry Travels around the World.	■ Listening中心の活動 ・Summarizing <input type="checkbox"/> 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、要点を把握することができる。 <input type="checkbox"/> 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要をまとめることができる。	各定期考査間の区切りを「ターム」とし、各ターム毎にスピーキング中心とリスニング中心の活動を交互に行う。スピーキング中心の活動はALTとのチーム・ティーチングとする。
	ターム②：Speaking中心の活動 ・School Uniforms ・Gorillas and Humans	■ Speaking中心の活動 ・Interaction <input type="checkbox"/> 既習の英文の内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方を習得し、それらを用いて情報や考えや気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対して反射的に答える習慣や的確かつ簡潔に答える力を身につけ、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話すことができる。	ターム①：Listening ・Summarizing ・定期考査
	ターム③：Listening中心の活動 ・"gr8" or great? ・Biodiesel Aventure	<input type="checkbox"/> 既習の英文の内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方を習得し、それらを用いて情報や考えや気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対して反射的に答える習慣や的確かつ簡潔に答える力を身につけ、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話すことができる。	ターム②：Speaking ・Interaction ・Summarizing ・Presentation ・オンライン英会話
	ターム④：Speaking中心の活動 ・Eco-tour on Yakushima ・Mariko Nagai, Super Interpreter	・Summarizing <input type="checkbox"/> 既習の英文を読んで、その内容を要約し、それらの問題について自分の考えや意見を述べたり発表したりすることができる。 ・Presentation <input type="checkbox"/> 既習の英文のトピックについて、使われた語句や文等を復習し、それらを活用しながら書いた意見を、ポスター等を利用して発表することができる。	ターム③：Listening ・Summarizing ・定期考査
	ターム⑤：Listening中心の活動 ・Space Elevator ・Friendship over Time	<input type="checkbox"/> 既習の英文の内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方を習得し、それらを用いて情報や考えや気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対して反射的に答える習慣や的確かつ簡潔に答える力を身につけ、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話すことができる。	ターム④：Speaking ・Interaction ・Summarizing ・Presentation ・オンライン英会話
後 期		■ 共通 <input type="checkbox"/> ペア・グループワークにおいて、英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を持つことができる。 <input type="checkbox"/> 教材の内容と文化的・習慣的背景を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 学習する語句や表現を理解し、口頭練習を繰り返し定着させることができる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができる。	ターム⑤：Listening ・Summarizing ・定期考査 年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 家庭基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
家庭基礎	2年	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	家庭科55資料集・学習ノート (教育図書)・(東京書籍)

科目の目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
学習活動	<p>・生活にかかわる事柄（衣食住、消費生活、家族、福祉）を各ライフステージの生活課題に関連づけて主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、残りが実験・実習などの実践的・体験的な学習です。 教養力 思考力</p> <p>・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。学習ノートは空欄補充を教科書を活用しておこない復習をします。 思考力 表現力</p> <p>※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 協働力 省察力</p> <p>※生活技術の習得も生きる力をつけるための大切な学習となります。卒業後、大学生活で一人暮らしをする場合に困らない程度の技術を身につけましょう。 志力</p> <p>※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 教養力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート・学習ノート（提出） <input type="checkbox"/> 実習・課題への取組	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート・学習ノート（考察） <input type="checkbox"/> 実習・課題の取組 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 定期考査	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> 作品	<input type="checkbox"/> 定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■ 家族・社会との共生</p> <p>第1章 自分らしい人生をつくる</p>	<p>□ 家庭科の学習が、家族・社会の共生、生活の自立、生活の創造につながることを理解し、学習に対する意欲を高める。</p> <p>□ 男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活のあり方について考える。</p> <p>□ 高校卒業後について経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。</p> <p>□ 日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する。基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。</p> <p>□ ホームプロジェクトの発表を通して、生活課題を発見する視点やその課題を解決するための手立てについて理解を深める。</p> <p>□ 子どもの育つ力と発達段階を知り、人生の初期における親・家族や周囲の人々のかかわりの大切さを学ぶ。</p>	<p>テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実験・実習などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。</p>
	<p>ホームプロジェクト (夏課題)</p>		
	<p>第2章 子どもと共に育つ</p>		
	<p>第8章 経済生活を営む</p> <p>第5章 食生活をつくる</p>		
後期	<p>第6章 衣生活をつくる</p>	<p>□ 被服のさまざまな役割を整理し、被服管理できるための知識と技術を身につける。</p> <p>□ 高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解し、高齢者を支える制度と課題を考える。</p> <p>□ 一生を通した福祉や社会的支援の必要性を知り、社会保障制度の理念と内容を理解する。</p> <p>□ 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。</p> <p>□ 日本の伝統的な食文化を知る。</p> <p>□ 住居の機能や間取りについて理解し、ライフステージにあった住居を考える。</p> <p>□ これまでの学習を踏まえて、自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。</p>	<p>テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実験・実習などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。</p>
	<p>第3章 高齢社会を生きる</p> <p>第4章 共に生き、共に支える</p>		
	<p>第5章 食生活をつくる</p>		
	<p>第7章 住生活をつくる</p>		
	<p>■ 生活の創造</p> <p>第9章 生活を設計する</p>		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 自然科学探究 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
自然科学探究 I	2年理系	1	自作教材	岡山県高等学校理科協議会発行の実験書

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、自然科学分野の諸問題について探究する学習を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	<p>「課題設定」「観察・実験」「成果発表」の探究サイクルで、自然科学の諸問題を深く学ぶ。</p> <p>(1)「リインテグレーション&ガイダンス」 教養力・思考力 既習の原理や法則についてのまとめ、対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能についての講義等。</p> <p>(2)「課題設定」 思考力・省察力・協働力 事象を観察し、課題を把握・設定する活動。</p> <p>(3)「仮説設定と計画立案」 教養力・思考力・省察力・協働力 習得した知識や経験を活用し、仮説を設定、検証計画をプランニングする活動。</p> <p>(4)「観察・実験」 思考力・表現力・省察力・協働力 観察・実験等とその結果の整理、考察、結論の導出の活動。</p> <p>(5)「成果発表」 表現力・省察力・協働力・志力 (4)の成果を共有・検証する、発表・議論などの活動。</p> <p>※学習の取り組み方のポイント</p> <p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。</p> <p>②【わくわくを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。</p> <p>③【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識及び技能 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できている。	思考力、表現力 実際の現象と自然界の法則との関わりから問いを見だし、自分で仮説を立て、観察・実験を通して情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	省察力、協働力、志力 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、課題についての理解を深め、多様な他者との協働により、よりよい社会を実現しようとする態度を持っている。
評価方法	○ワークシート・レポート等の成果物 ○自己評価・相互評価	○活動の状況などの観察 ○ワークシート・レポート等の成果物 ○自己評価・相互評価	○活動の状況などの観察 ○ワークシート・レポート等の成果物 ○自己評価・相互評価

年間指導計画

学期	学習活動	活動内容	評価の観点					
			A	B		C		
			教 養 力	思 考 力	表 現 力	省 察 力	協 働 力	志 力
前期 ・ 後期	テーマ1 (物理基礎または生物基礎で、 すでに学習した分野のうち、一定 の範囲の中から、探究する事象を 決めたテーマ)	○必要な知識及び技能についての講義	○	○				
		○課題を設定、検証可能性の吟味		○		○	○	
		○課題解決に至る仮説を設定	○	○		○	○	
		○観察・実験の計画を立案	○	○		○	○	
		○観察・実験		○	○	○	○	
		○結果を考察、結論を導出		○	○	○	○	
		○考察等の成果を発表、振り返り			○	○	○	○
	テーマ2 (物理基礎・物理または生物基礎・ 生物で、すでに学習した分野のう ち、一定の範囲の中から、探究す る事象を決めたテーマ)	○必要な知識及び技能についての講義	○	○				
		○課題を設定、検証可能性の吟味		○		○	○	
○課題解決に至る仮説を設定		○	○		○	○		
○観察・実験の計画を立案		○	○		○	○		
○観察・実験			○	○	○	○		
○結果を考察、結論を導出			○	○	○	○		
○考察等の成果を発表、振り返り				○	○	○	○	
テーマ3 (物理基礎・物理または生物基礎・ 生物で、すでに学習した分野のう ち、一定の範囲の中から、探究す る事象を決めたテーマ)	○必要な知識及び技能についての講義	○	○					
	○課題を設定、検証可能性の吟味		○		○	○		
	○課題解決に至る仮説を設定	○	○		○	○		
	○観察・実験の計画を立案	○	○		○	○		
	○観察・実験		○	○	○	○		
	○結果を考察、結論を導出		○	○	○	○		
	○考察等の成果を発表、振り返り			○	○	○	○	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 フードデザイン

科目	学年	単位数	教科書	副教材
フードデザイン	2年	2	フードデザイン新訂版 (実教出版)	

科目の目標	栄養素の種類とはたらきについて理解し、栄養バランスのよい食事計画が作成でき、それらを調理するための知識と技術を養う。年中行事における食事を理解し、日本の伝統食についての知識と技術を習得する。日本の食生活の現状と課題を把握し、食事を大切にすることを養う。			
学習活動	<p>・食のさまざまな分野が主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、残りが実習・演習などの実践的・体験的な学習です。 教養力 思考力</p> <p>・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。 思考力 表現力</p> <p>※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 協働力 省察力</p> <p>※実際に家庭で調理をしたり、日本の食を取り巻く現状を調べたり聞いたりすることは授業内容に理解を深めてくれます。 志力</p> <p>※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 教養力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけている。	自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。	調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート（提出） <input type="checkbox"/> 実習・課題への取組	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート（考察） <input type="checkbox"/> 実習・実験への取組 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 定期考査	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> 実習作品	<input type="checkbox"/> 定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	第2章 栄養素の働きと食事計画 ①からだのしくみと食べ物 ②炭水化物 ③脂質 ④たんぱく質 ⑤ビタミン ⑥ミネラル ⑦水 ⑧消化と吸収 ⑨食事摂取基準と食事計画 ⑩ライフステージと栄養計画 第4章 調理の基本 ①調理とおいしさ ②調理操作 ③調味操作 第6章 フードデザイン実習 ①和風献立 ②洋風献立 ③中華献立 ④行事食	<input type="checkbox"/> 人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを理解する。 <input type="checkbox"/> 各種栄養素の特徴と体内でのはたらき、代謝について理解する。 <input type="checkbox"/> 栄養に偏りのある食事内容について改善計画を考えさせ、食生活を向上させる。 <input type="checkbox"/> おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせるようにする。 <input type="checkbox"/> 計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につける <input type="checkbox"/> 調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 <input type="checkbox"/> 栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について理解し、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、4つの観点についての評価をおこなう。
後 期	第5章 料理様式と テーブルコーディネート 第6章 フードデザイン実習 ①和風献立 ②洋風献立 ③中華献立 ④行事食 ⑤供応食 第1章 食生活と健康 ①食事の意義と役割 ②食をとりまく現状	<input type="checkbox"/> 身につけた知識を調理にいかし、手際よく作り、場面にあったテーブルコーディネートができる。 <input type="checkbox"/> 自分および家族の健康を考えた日常料理を知り、それが調理できる。 <input type="checkbox"/> 弁当に関する料理の要点を知り、栄養のバランスや味の調和がとれた弁当料理を作ることができる。 <input type="checkbox"/> 家族、友人等集団での食事を共にすることの意義など、食事に関わる利点を確認する。 <input type="checkbox"/> 現代の食に関する問題点を把握する。 <input type="checkbox"/> 各国の食糧自給率を通して、日本における食料生産の問題点を考えさせる。 <input type="checkbox"/> 市場にあふれる食材の背景にあるものに気づき、食料の価値を考える。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、4つの観点についての評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 スポーツ I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
スポーツ I	2年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)

科目の目標	採点競技及び測定競技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。			
学習活動	①陸上競技や水泳競技の合理的、計画的な実践を通して、専門的な技術や高度な技能を高め課題の解決に向けて取り組むことにより、陸上競技や水泳競技のもつ特性や魅力に触れ、楽しさや喜びを深うためのポイントを身に付けます。 教養力・思考力・省察力 ②陸上競技や水泳競技の学習を通して、生涯を通してのスポーツ振興にかかわることができる資質や能力を身に付けます。 教養力・思考力・省察力・志力 ③競技会の実施や大会への参加を通して、公正な態度や、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たす態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して運動することができる能力や態度を身に付けます。 思考力・省察力・表現力・協働力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	
評価の観点及び評価規準	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	知識・理解
	競争したり、記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 互いに協力し、励まし合いながら進んで練習や競技を行おうとする。体の調子を確認し合ったり活動場所や器具の安全を確かめるなど、健康・安全に留意しようとする。	自分の能力に応じた目標記録や練習課題を設定している。 課題解決のための合理的な練習方法を工夫している。 自分の能力を最大限に発揮できるように競争相手を選んだり競技方法を工夫している。	自分の能力に応じた技能で、練習や競技をすることができる。 選択した種目について、動きのポイントを身につけ、その技能を高め、競技したり記録を向上させたりすることができる。	選択した種目の特性や技術の構造、練習方法、学習の進め方を知っている。 選択した種目のルール、競技方法や審判法を知っている。 ・競技会の企画・運営方法を知っている。
評価方法	○活動状況の観察 ○課題への取組	○グループ活動状況の観察 ○グループノート記入 ○感想レポート	○パフォーマンステスト ○新体力テスト ○授業状況の観察	○知識理解テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	オリエンテーション I 陸上競技 ・やり投げ II 水泳競技（競泳競技） ・クロール ・平泳ぎ ・バタフライ ・背泳ぎ	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、活動することができる。 <input type="checkbox"/> 専門的な技術の習得や高度な技能の上達を目指して、意欲的に学習（練習）に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、4つの観点について評価をおこなう。
後期	III 陸上競技 ・三段跳び IV 陸上競技 ・長距離走	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、活動することができる。 <input type="checkbox"/> 専門的な技術の習得や高度な技能の上達を目指して、意欲的に学習（練習）に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	「学習活動」の①をおこない、4つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 特別活動 2年次生

目 標	<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>■ホームルーム活動</p> <p>(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現</p> <p>■生徒会活動</p> <p>(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2)学校行事への協力 (3)ボランティア活動などの社会参画</p> <p>■学校行事</p> <p>(1)儀式的行事 (2)文化的行事 (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事</p>		
未来開拓力	<p>教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能</p>	<p>思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力</p> <p>表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力</p>	<p>省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力</p> <p>協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力</p> <p>志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力</p>
評価の観点及び評価規準	<p>よりよい生活を築くための知識・技能（A）</p> <p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身につけている。</p>	<p>集団や社会の形成者としての思考・判断・表現（B）</p> <p>集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。</p>	<p>主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度（C）</p> <p>自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ることができる。</p>
評価方法	<p>○行動観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○自己評価</p>	<p>○行動観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○自己評価</p>	<p>○行動観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○自己評価</p>

年間指導計画

領 域	活 動 内 容	評価の観点					
		A	B		C		
		教養力	思考力	表現力	省察力	協働力	志力
ホームルーム活動	<input type="checkbox"/> レクリエーション					○	
	<input type="checkbox"/> 読書会		○	○			
	<input type="checkbox"/> 修学旅行（準備活動）					○	○
	<input type="checkbox"/> 進路LHR（志望進路選択）						○
	<input type="checkbox"/> 進路LHR（大学入試システム）						○
	<input type="checkbox"/> 千鳥祭準備					○	
	<input type="checkbox"/> 「STANDBY」説明会	○					
	<input type="checkbox"/> 科学エキスパート講演会	○					
	<input type="checkbox"/> 交通安全講演会	○					
	<input type="checkbox"/> 心と命の講演会	○					
	<input type="checkbox"/> 主権者教育	○					
	<input type="checkbox"/> 探究活動		○	○			
	生徒会活動	<input type="checkbox"/> 新入生歓迎行事	○				○
<input type="checkbox"/> 千鳥祭ブロック結団式						○	
<input type="checkbox"/> 千鳥welcomeデー				○		○	
<input type="checkbox"/> 生徒総会			○	○			
<input type="checkbox"/> 生徒会役員選挙			○				
<input type="checkbox"/> 各種委員会活動						○	○
学校行事	<input type="checkbox"/> 入学式・卒業式				○		○
	<input type="checkbox"/> 始業式・終業式				○		○
	<input type="checkbox"/> 修学旅行（キャリア研修等）				○		○
	<input type="checkbox"/> 芸術鑑賞	○					
	<input type="checkbox"/> 千鳥祭（文化祭）			○		○	
	<input type="checkbox"/> 身体計測				○		
	<input type="checkbox"/> 球技大会			○		○	
	<input type="checkbox"/> 体育大会			○		○	
	<input type="checkbox"/> 防災訓練	○					
	<input type="checkbox"/> 社会貢献活動						○
	<input type="checkbox"/> 千鳥ボランティア						○

※この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。